緑の猫（1983）

メディア オリジナルビデオ　アニメ
ジャンル ファミリー　ファンタジー
製作国　日本
色彩　Color
時間　24分

【解説】
　手塚治虫が1956年から1957年にかけて「おもしろブック」（集英社）の毎号の別冊付録に執筆した傑作SF連作シリーズ『ライオンブックス』。その中の同題の一編をアニメ化した作品。
　愛猫「グリーン」を捜し求めて古い無人の洋館に入っていく少年サンゴ・ユノ。だがその前に立ちはだかった私立探偵・伴俊作（ヒゲオヤジ）はサンゴに拳銃を渡し、「緑の猫」を撃つように告げた。抵抗しながらも拳銃を手に館に入っていくサンゴ。中には、瞳を妖しく光らせた複数の猫たちが待っていた。サンゴがグリーンに迫る一方、館の周囲では少し離れた場所から軍隊が館に砲撃せんと準備を始めた。実は軍隊の隊長は、自分たちが一体、何を攻撃するのかすら知らない。そんな隊長に、ヒゲオヤジは館の中にいる緑の猫＝グリーンの秘密を語り始める。まだ赤ん坊だったサンゴと出会い、彼の人生を狂わせて悪の道に導いた猫。その正体は……。
　当初はTVシリーズ『ライオンブックス』の一編として放映される構想だったが、惜しくも番組企画が実現せず、他の手塚短編のアニメ化とあわせて後にOVA作品として発売された。監督は、手塚自身が担当したが、主力スタッフとして活躍したのは「24時間テレビ」の手塚スペシャルアニメなどで実績ある名アニメーター・西村緋禄司で、彼が脚本・演出・絵コンテ・作画監督も全て兼任。本作のアニメ化企画を提出したのも、この原作に思い入れのある西村だった。

【クレジット】

監督	手塚治虫	Osamu Tezuka
演出	西村緋禄司	
絵コンテ	西村緋禄司	
プロデューサー	松谷孝征	
原作	手塚治虫	Osamu Tezuka
脚本	西村緋禄司	
作画監督	西村緋禄司	
動画	手塚プロダクション	
撮影監督	菅谷信行	
特殊効果	前川清司	
美術監督	宮本清司	
編集	井上和夫	
音響監督	河村常平	
音楽	小六禮次郎	
仕上	牧プロ	
	Ｅ＆Ｇ	
声の出演	冨田耕生	伴俊作
	塩沢兼人	サンゴ・ユノ
	野沢雅子	グリーン
	滝口順平	博士

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

矢田耕司	ヘック・ベン
大宮悌二	隊長
滝沢久美子	スーザン
屋良有作	モヒカン
嶋俊介	サンゴの父

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.